

高知の幸せ“未来人”が議論

30年後の“未来人”の立場で、高知の将来像を考えよう。一般社団法人「しあわせ推進会議」(高知市、小川雅弘会長)が、こんなユニークな手法で持続可能な地域づくりに向けて動き出した。高知工科大の研究所が提唱する「フューチャー・デザイン(FD)」という手法を導入し、子や孫ら将来世代の視点で課題をみつめ、解決策を探るという。

(大野泰士)

推進会議が新手法

同推進会議には県内外 開かれた。小川会長は82の企業や自治体、個人「これまででは自治体や企業が個々に将来ビジョンを描いてきた。近視眼的でなく、みんなで一緒に地域の幸福度を上げる方策を考えたい」と強調。調査などを行っており、GKH向上のためFDに着目した。

9日、高知市で総会が

総会に合わせて、会員約

県の将来像 来秋提言へ

20人がFDの体験ワークショップに参加。4人ほの10分の1で済んだ

どのグループに分かれ、2050年に幸せに暮らしている“未来人”になりきって話し合った。

「南海トラフ地震に見

『ノー残業デー』なんて言葉はもう死語になったね」「ドローンタクシーができて山間部の移動が便利になった」

各自が幸福な暮らしをイメージしつつ、高知の問題点を把握していった。

FD研究所長の西條辰義教授は「FDは岩手県矢巾町や岐阜県高山市などの政策づくりで実践されているが、高知県では初めて。将来を見る目を持てば、独創的なアイデアが出る」と話した。

同会議は来年1月から6回のワークショップを行う。一般参加も可。問い合わせは同会議(08・856・9222)へ。

未来人になりきって高知の将来像を議論した体験ワークショップ(高知市上町2丁目の城西館)

